
2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月11日

田岡化学工業株式会社
取締役社長 佐藤 良

-
- 1. 会社概要…………… 3
 - 2. 2020年3月期第2四半期決算概要… 5
 - 3. 2020年3月期見通し…………… 22
 - 4. トピックス…………… 26

1. 会社概要

■ 1. 会社概要.....	3
■ 2. 2020年3月期第2四半期決算概要...	5
■ 3. 2020年3月期見通し.....	22
■ 4. トピックス.....	26

1. 会社概要

- 1919年 「田岡商店」創業
- 1934年 「田岡染料製造株式会社」設立
- 1949年 株式上場 1955年 住友化学出資
- 2000年 「三建化工株式会社」合併

事業所 本社・淀川工場、播磨工場
大江製造課、東京支店

連結子会社 2社 非連結子会社 4社

従業員数 単体：357名 連結 425名
(2019年9月末)

2. 経営成績

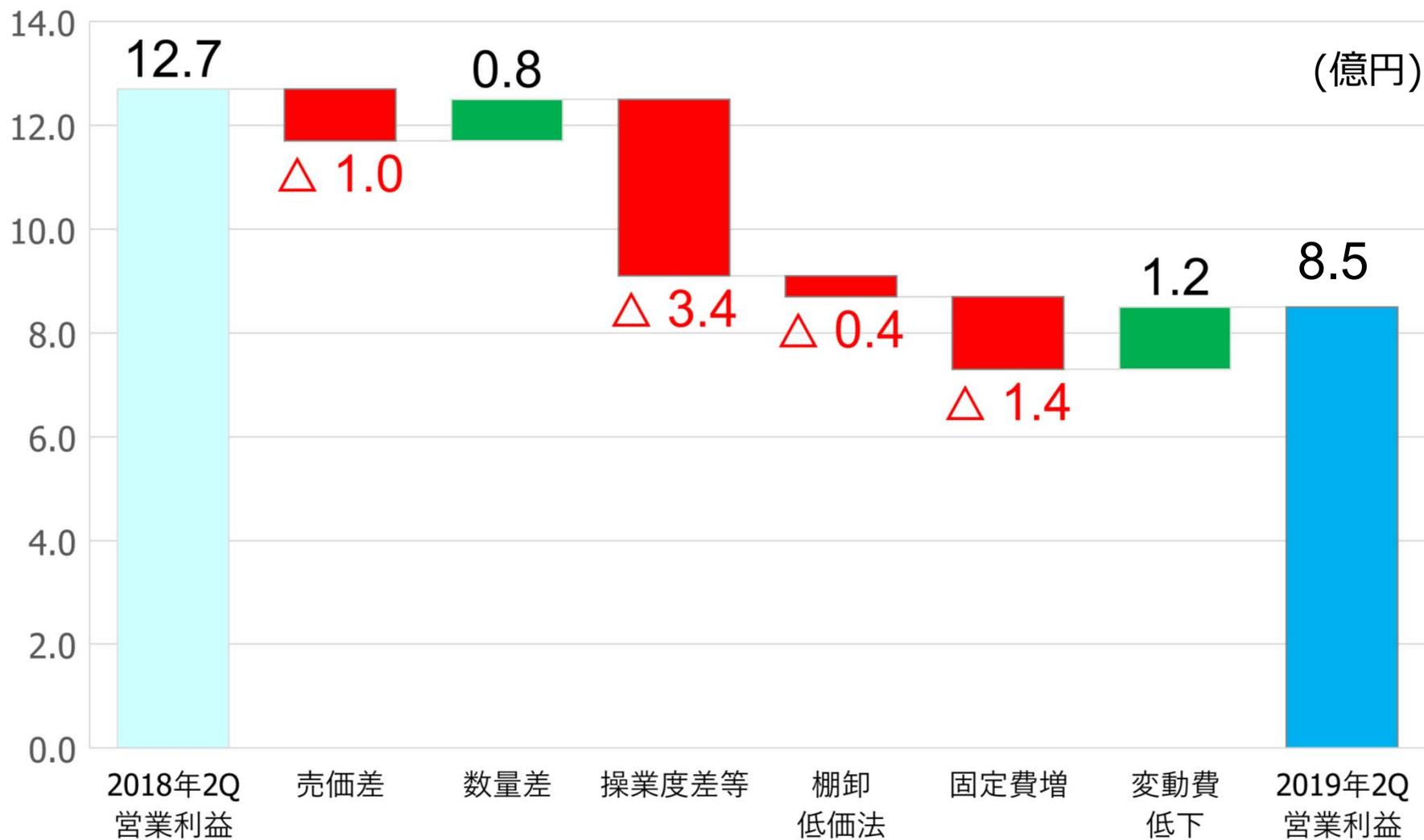
- 1. 会社概要…………… 3
- 2. 2020年3月期第2四半期決算概要… 5
- 3. 2020年3月期見通し…………… 22
- 4. トピックス…………… 26

2. 経営成績

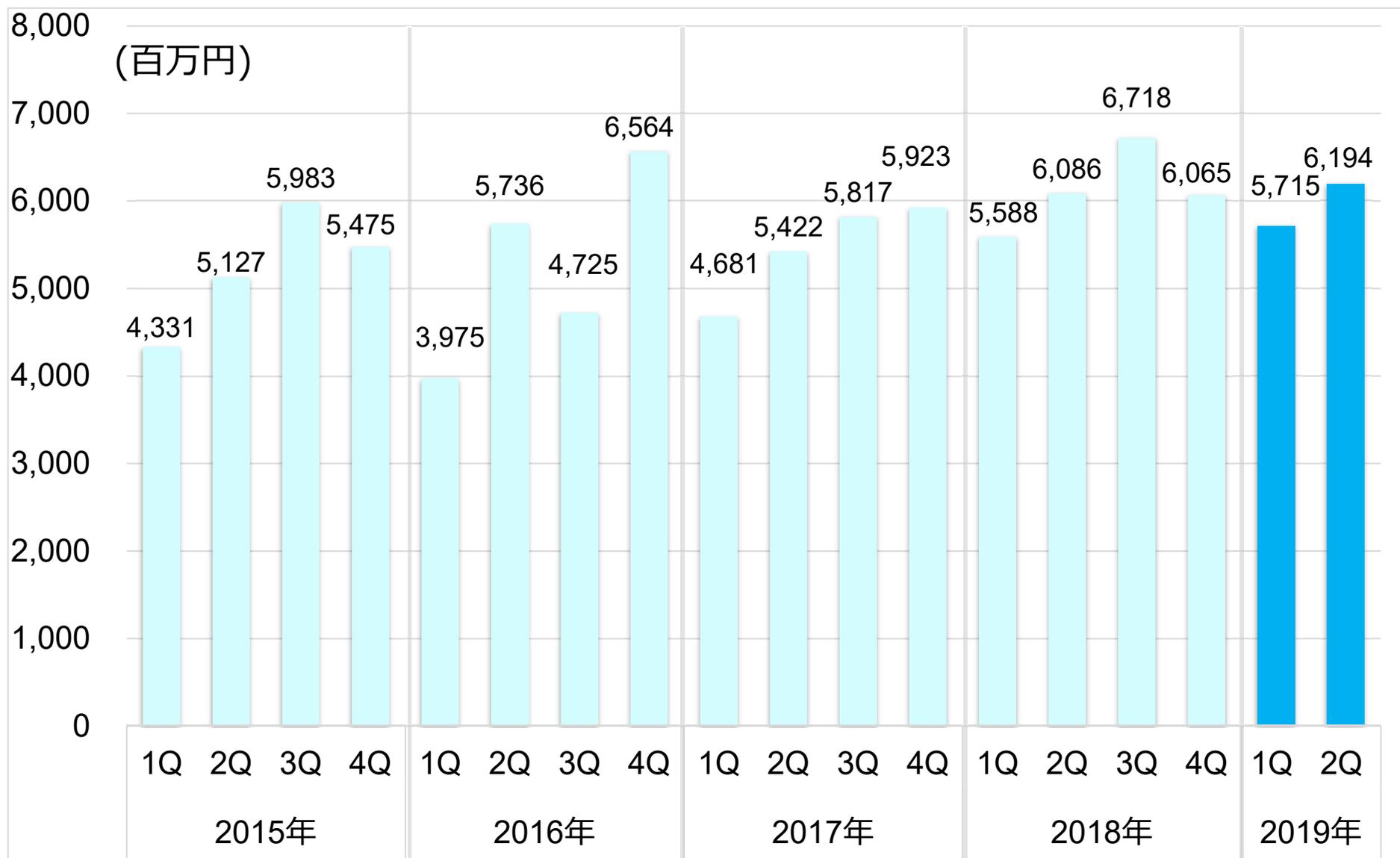
(百万円)

	2018年2Q	2019年2Q	増減
売上高	11,674	11,909	235
営業利益	1,273	848	△425
経常利益	1,295	867	△427
当期純利益	926	631	△295

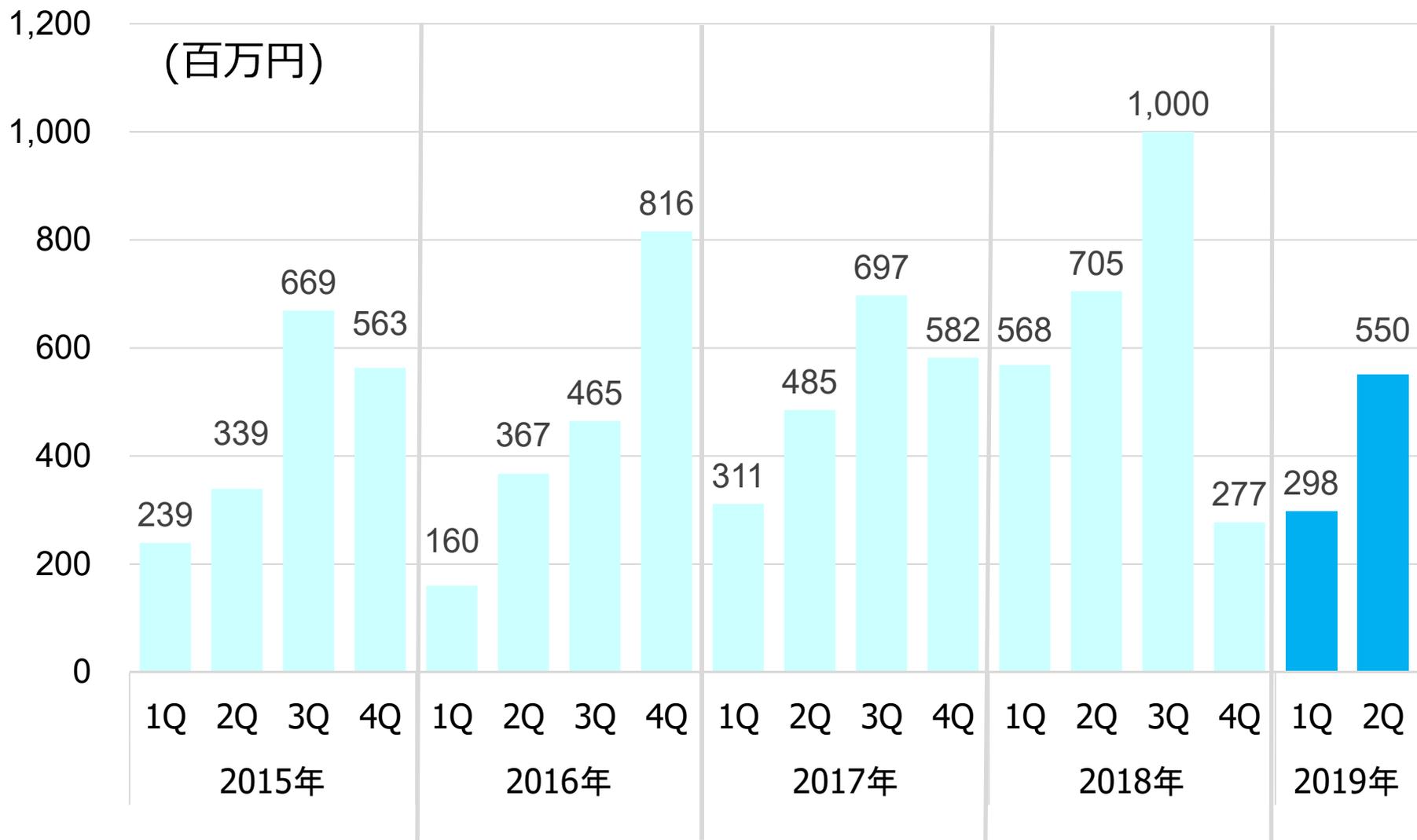
営業利益対前年同期変動要因分析



四半期売上高推移



四半期営業利益推移



■ セグメントおよび部門

セグメント	部門	事業内容
化学工業 セグメント	精密化学品	樹脂原料 医農薬中間体 電子材料
	機能材	ゴム薬品 接着剤
	機能樹脂	ワニス(絶縁被覆材料) 紙用加工樹脂
	化成品	可塑剤 その他工業薬品
その他		各種化学分析の受託

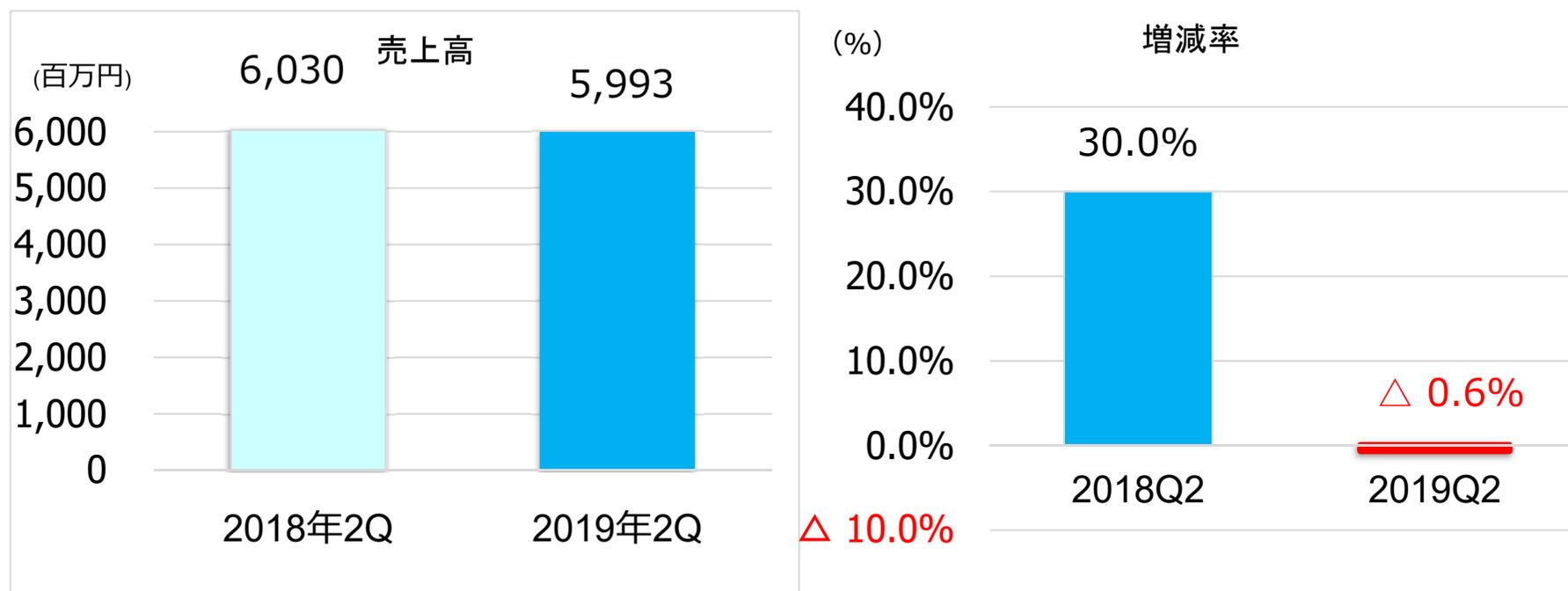
■セグメント部門別売上高

(単位：百万円)

	2018年2Q	2019年2Q	増 減
精 密 化 学 品	6,030	5,993	△36
機 能 材	1,891	1,789	△102
機 能 樹 脂	1,194	1,500	305
化 成 品	2,318	2,367	49
化学工業セグメント 計	11,435	11,651	216
その他（受託分析）	239	258	18
合 計	11,674	11,909	235

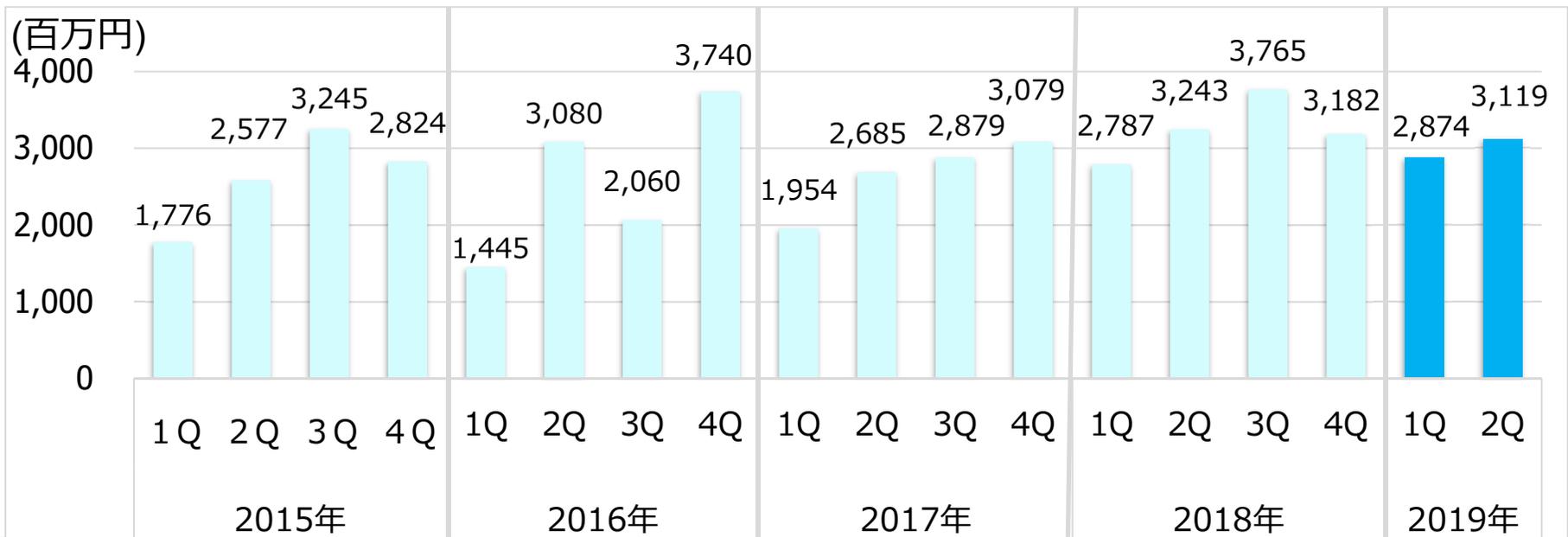
■ 精密化学品部門売上高

医薬中間体や農薬中間体は旺盛な需要により堅調に推移したものの、工事休止等により電子材料や樹脂原料等の出荷数量が減少したため、売上高は**59億93百万円**とほぼ前年同四半期並みとなりました。



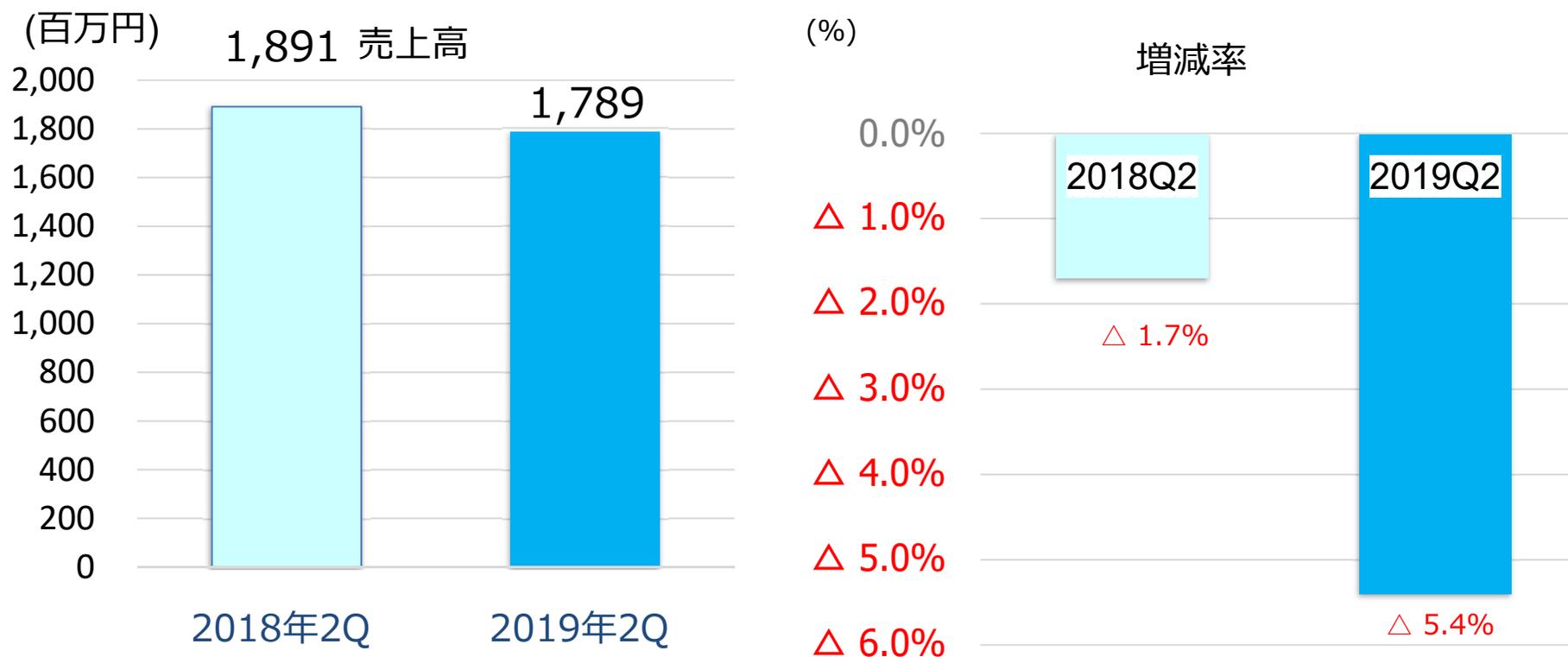
精密化学品部門 概況 売上高推移

- 樹脂原料：需要は堅調に推移。生産能力増強を検討中(一部実施)。
- 医農薬中間体及び電子材料：受託事業も堅調な推移見通し。新規農薬(生産品目拡大)の受託を目指す。
- 四半期売上高実績は2017年 2Qに完成した播磨工場N-1工場稼働により生産量拡大し増減の振れ幅が縮小。



■ 機能材部門売上高

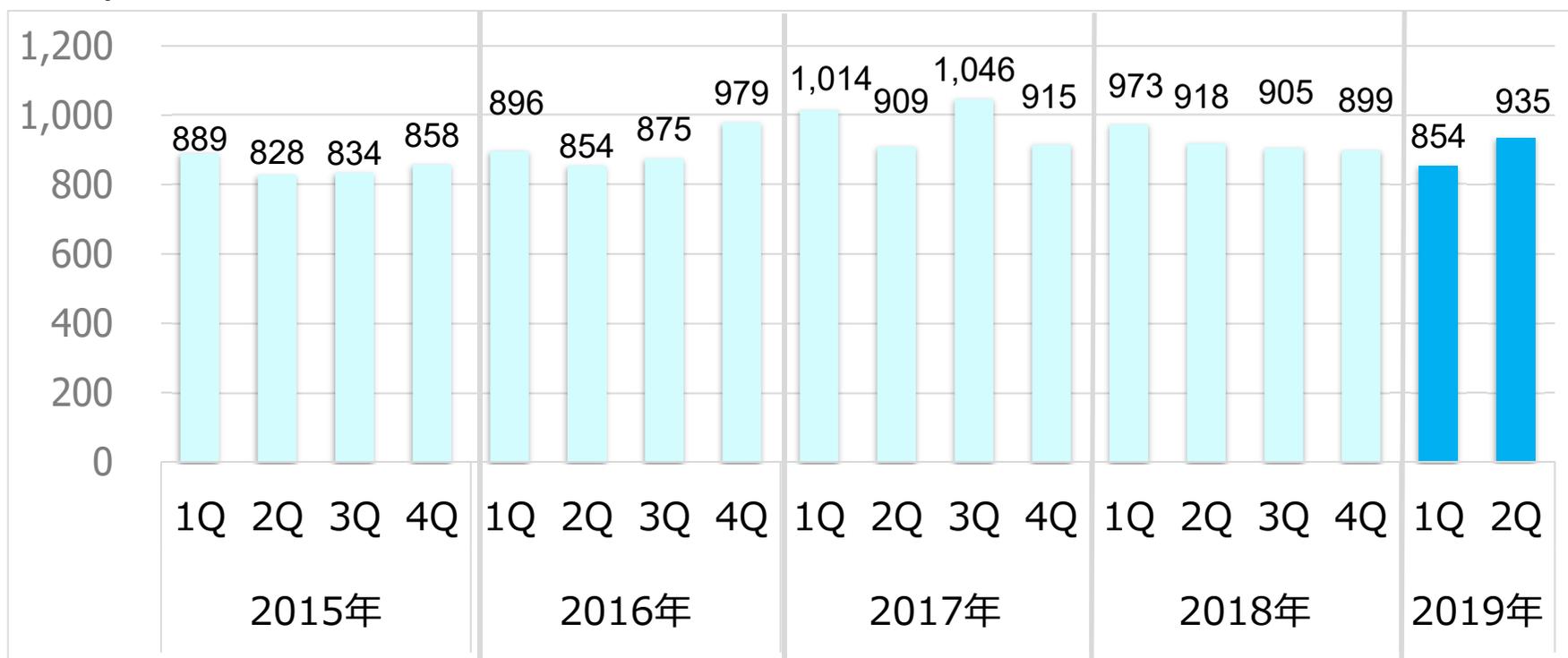
瞬間接着剤およびゴム薬品の国内出荷はほぼ前年並みとなりましたが、輸出については減少したため、売上高は**17億89百万円**と前年比**5.4%減収**となりました。



機能材部門 概況 売上高推移

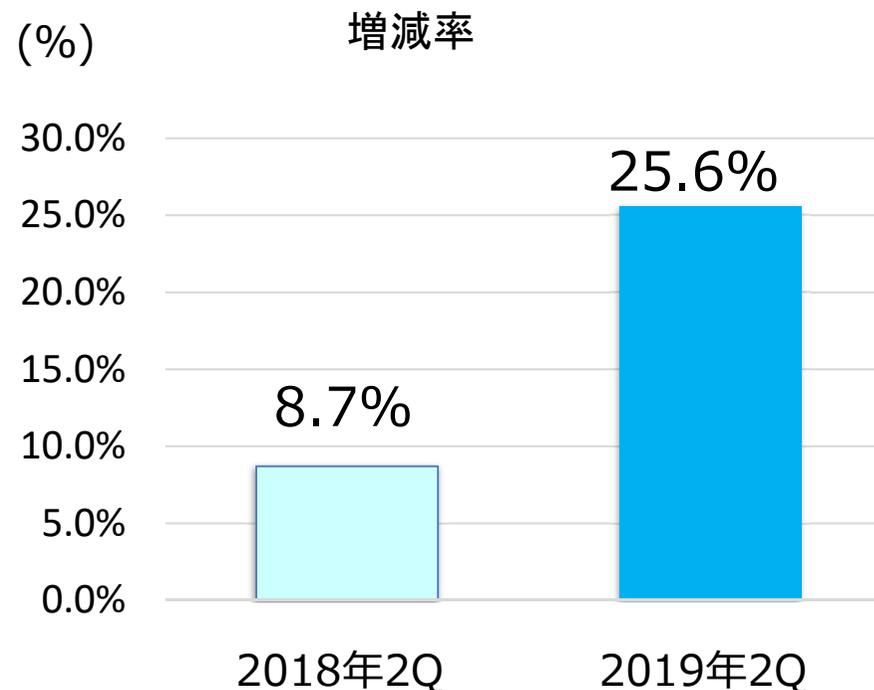
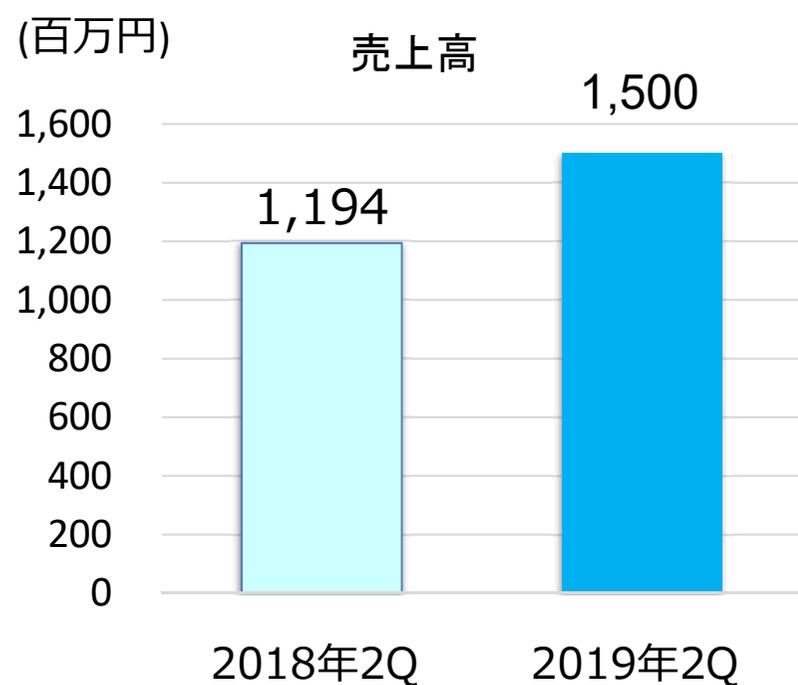
- 直近は米中貿易摩擦の影響あり減収となるも、中期的売上高実績は安定。
- 東南アジア、中国、インドのタイヤ需要の拡大に備え、ゴム薬品生産設備投資をインドで実施。

(百万円)



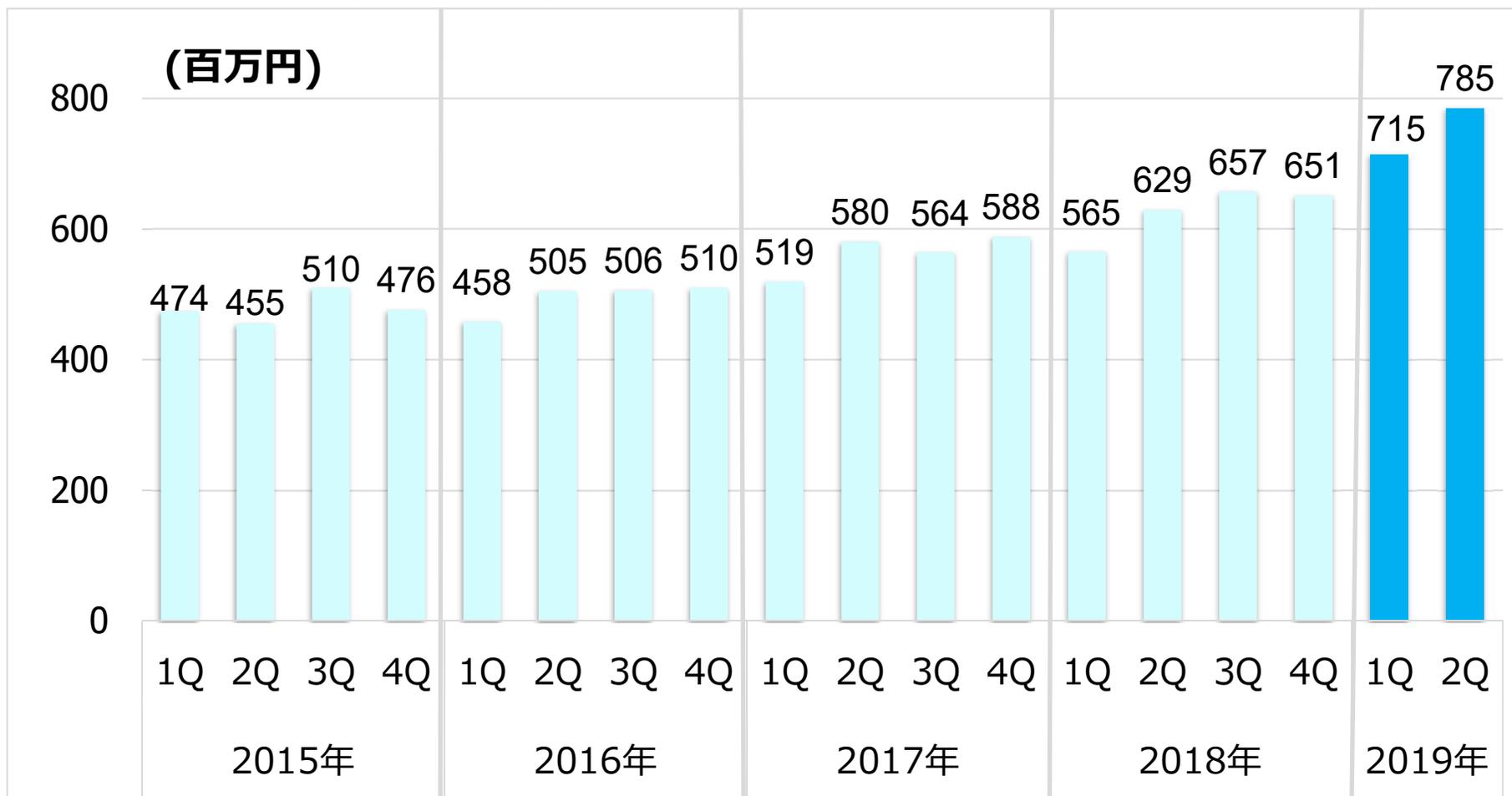
■ 機能樹脂部門売上高

前年第2四半期に完成した機能樹脂生産設備の円滑な稼働により、ワニスの出荷数量が増加したため、売上高は**15億円**となり、前年同四半期に比べ**25.6%**増加となりました。



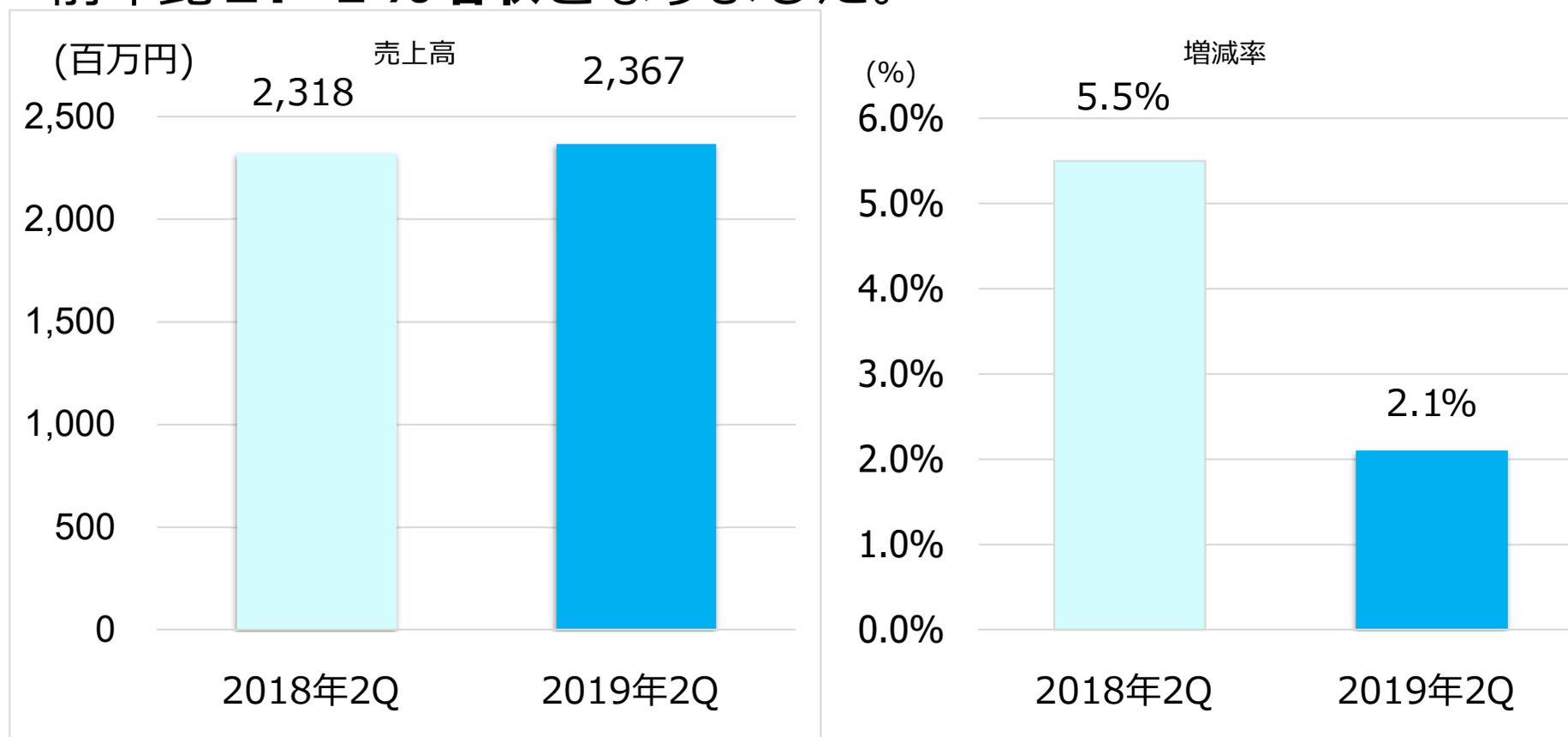
機能樹脂部門 概況 売上高推移

- 播磨工場に2018年に完成した生産設備によりワニスの売上高は伸長。



■ 化成品部門売上高

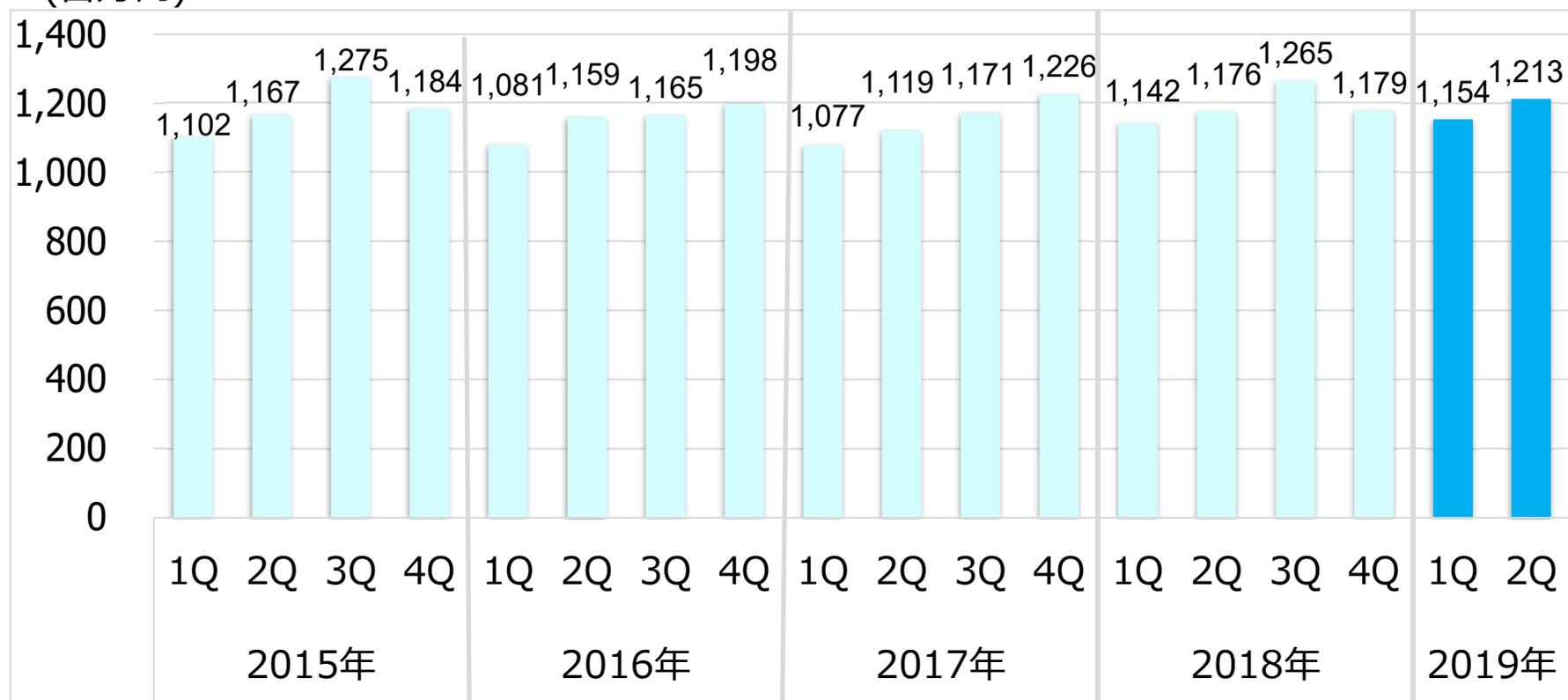
可塑剤は原料価格に連動した販売価格の下落はあったものの出荷は堅調に推移したため、売上高は**23億67百万円**となり、前年比**2.1%増収**となりました。



化成品部門 概況 売上高推移 (単位:百万円)

- 可塑剤は食品包装用途に安定した売上高を計上。潤滑油用途や自動車部材向け用途の開発による拡販を目指す。

(百万円)



■ 貸借対照表 資産の部

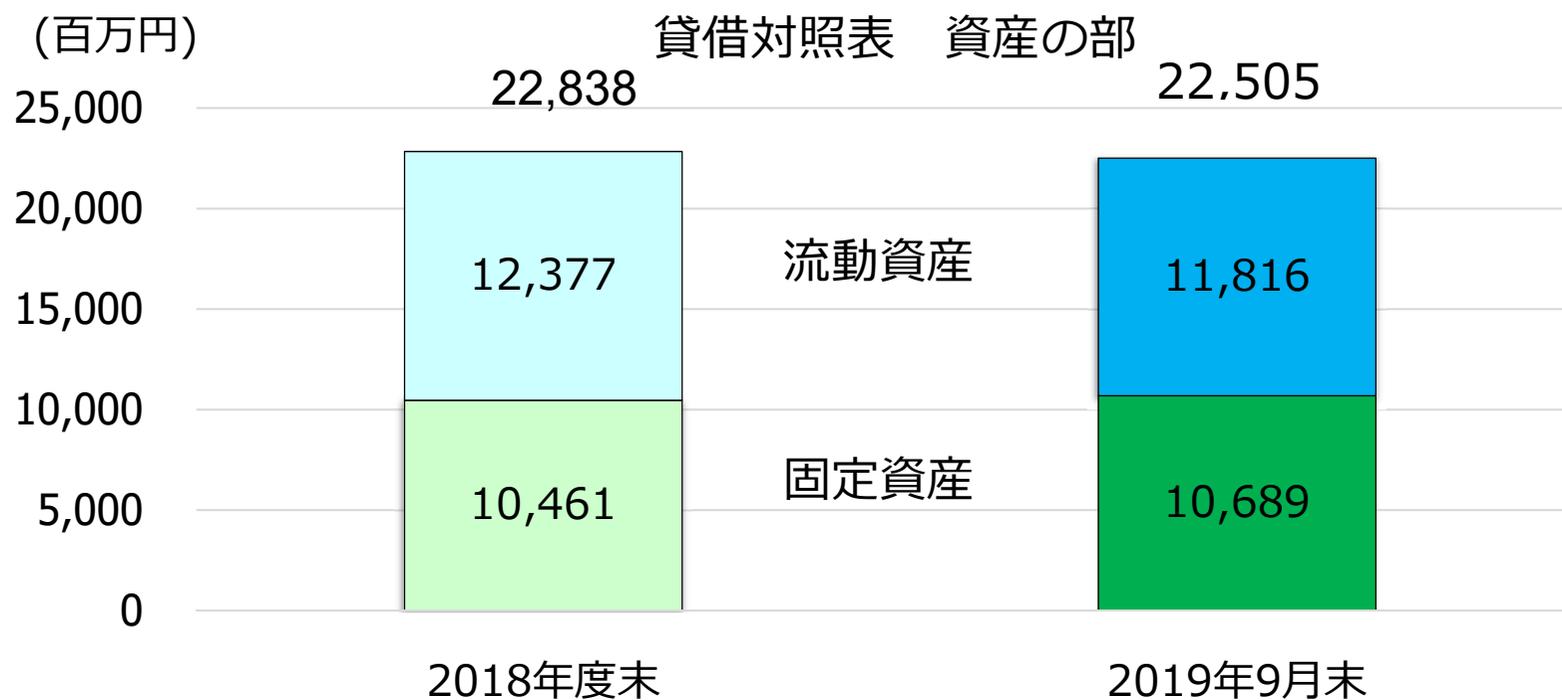
資産合計：225億5百万円。3億32百万円減少。

流動資産：5億60百万円減少。

主として休日要因により売掛債権が減少。

固定資産：2億27百万円増加。

主に製造設備・機器が増加。



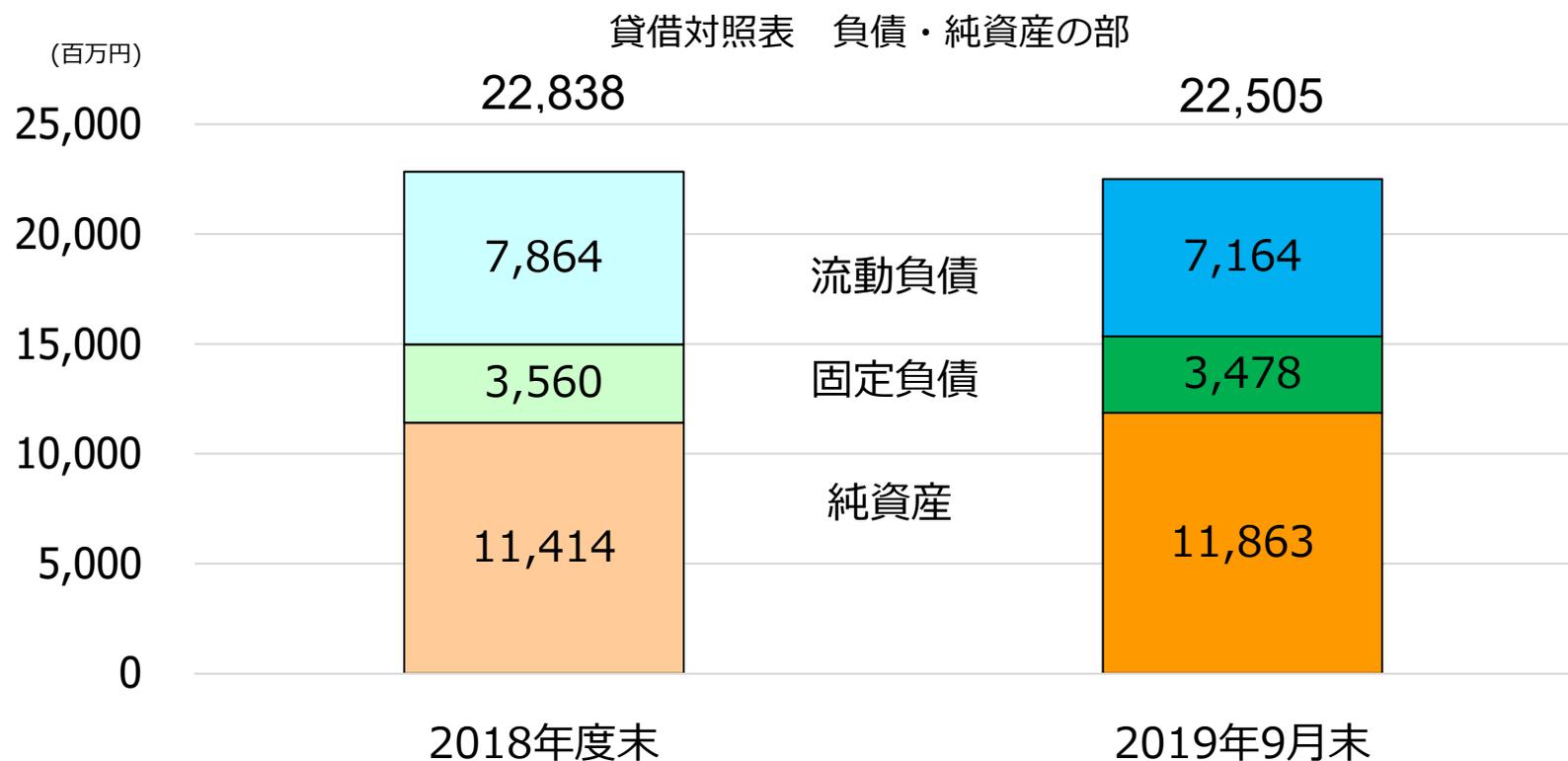
■ 貸借対照表 負債・純資産の部

負債・純資産合計：225億5百万円。3億32百万円減少

流動負債：7億円減少。支払手形・買掛金、未払法人税が減少。

固定負債：81百万円減少。長期借入金を返済。

純資産：4億49百万円増加。当期純利益を計上。



3. 2020年3月期見通し

- 1. 会社概要…………… 3
- 2. 2020年3月期第2四半期決算概要… 5
- 3. 2020年3月期見通し…………… 22
- 4. トピックス…………… 26

3. 2020年3月期見通し：業績予想

売上高は増収となるものの、労務費、減価償却費、研究費の増加により減益の見通し。前回予想据置。

(単位：百万円)

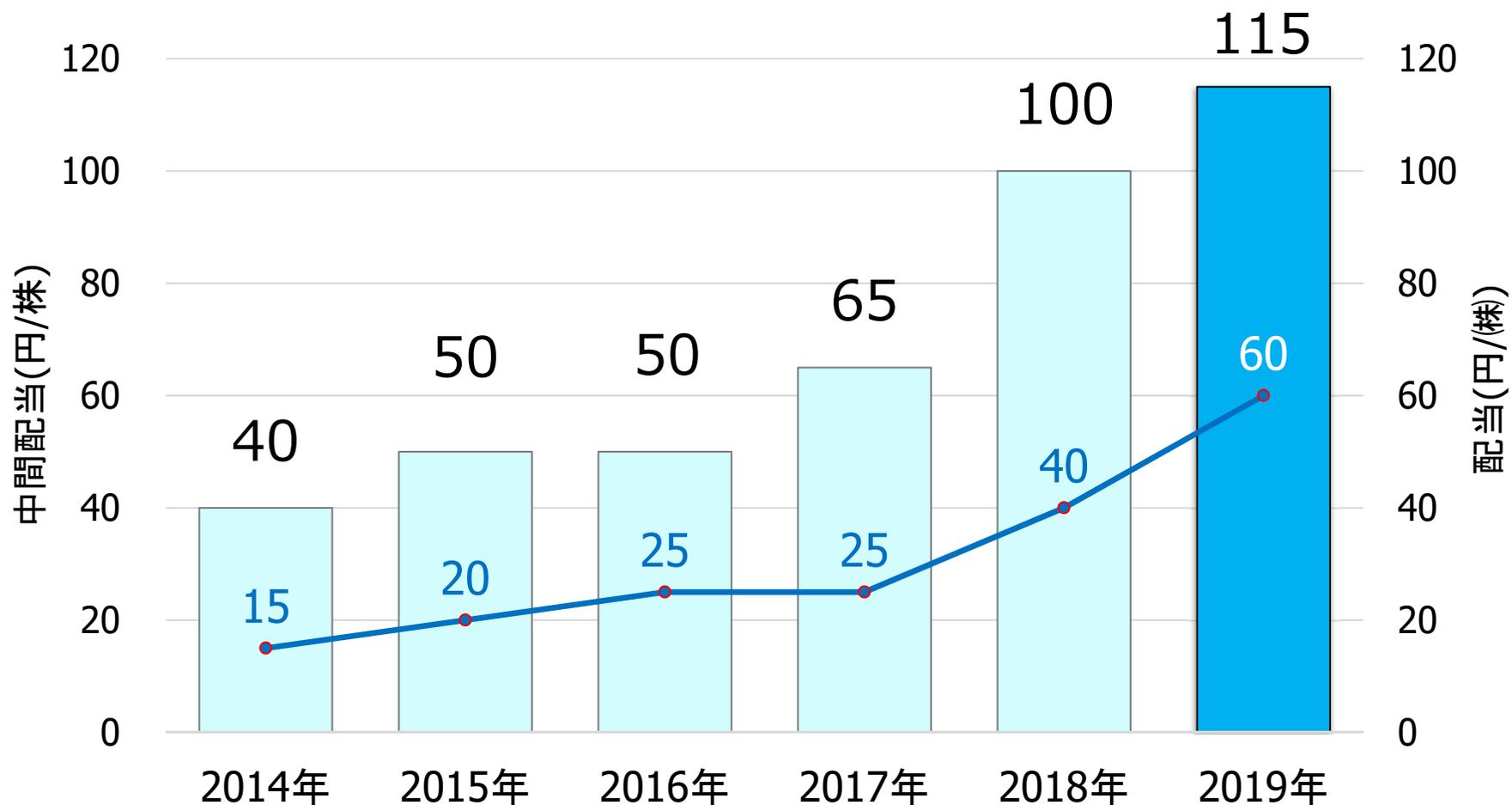
	2018年度	2019年度予想	増減
売上高	24,457	25,200	743
営業利益	2,550	2,300	△250
経常利益	2,582	2,300	△282
当期純利益	1,819	1,600	△219
配当(円/株)	100	115	15

3. 2020年3月期見通し：セグメント部門別売上高

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度予想	増 減
精 密 化 学 品	12,977	13,500	523
機 能 材	3,695	3,400	△295
機 能 樹 脂	2,502	3,000	498
化 成 品	4,762	4,800	38
化学工業セグメント 計	23,938	24,700	762
そ の 他	519	500	△19
合 計	24,457	25,200	743

3. 2020年3月期見通し：中間配当実績年間配当予想



4. トピックス

- 1. 会社概要…………… 3
- 2. 2020年3月期第2四半期決算概要… 5
- 3. 2020年3月期見通し…………… 22
- 4. トピックス…………… 26

4. トピックス

- (1) 中期事業課題の進捗
 - ・樹脂原料
 - ・ゴム薬品
 - ・中国販社設立

- (2) 名古屋大学 (IT b M) との共同研究

- (3) 田岡化学のESGに資する取組み

4. トピックス

セグメント	2018年 実績	2019年度 中期計画	2021年度 中期計画
精密化学品	130	医・農薬中間体、樹脂原料、 電子材料等の伸長により増収	150
機能材	37	ゴム薬品の東南アジア等の 海外市場での拡販により増収	49
機能樹脂	25	ワニス(絶縁被覆材)の伸長に より増収	50
化成品	47	可塑剤の用途開発による拡販	51
受託分析	5	作業環境分析の拡大	5
全社売上高	245	252	305

4. トピックス（1）中期事業課題の進捗 樹脂原料

- 旺盛な需要に対して、以下の対策を実施中
- 1) 短期的対策
 - ①既存設備の生産性向上
 - ②生産品目のベストミックスの追求
 - ③他社生産設備の活用の拡大
 - ④ライセンスの実施による供給能力の拡大
- 2) 中期的対策
 - ①新多目的製造設備建設に向けたインフラ整備
 - ②新多目的製造設備の具体案の作成

4. トピックス (1) 中期事業課題の進捗 ゴム薬品

- 田岡ケミカルインディアにおけるゴム薬品製造設備の導入
 - 1) 目的 顧客のBCP対応
 - 南アジアおよび東南アジアにおける市場開発
- 2) 完成時期 2020年春
- 3) 事業規模 3億円程度

4. トピックス (1) 中期事業課題の進捗 中国販社設立

- 1) 会社名 田岡化工材料(上海)有限公司

- 2) 目的
 - ①中国における新エネルギー車(ハイブリッド車・電気自動車)の電装部材に使用される高機能絶縁被覆材料の調達・販売。
 - ②田岡化学製品の中国市場開拓、原材料調達拠点

- 3) 営業開始 2020年1月予定
- 4) 事業規模 3～5年後に30億円程度

4. トピックス (2) 名古屋大学(ITbM)との共同研究

- 名古屋大学 (ITbM) とグラフェンナノリボンの製造方法に関する共同研究を開始。
(当社プレスリリース：2019年6月27日)
- 併せて同大学が出願中のグラフェンナノリボンに関する特許について、製造実施に係るオプション契約を締結。
- 共同研究を通じて、モノマーやグラフェンナノリボンの量産化に向けて検討を開始。
- 事業化未定なるも、基礎段階から先端材料の開発に側面から貢献する方針

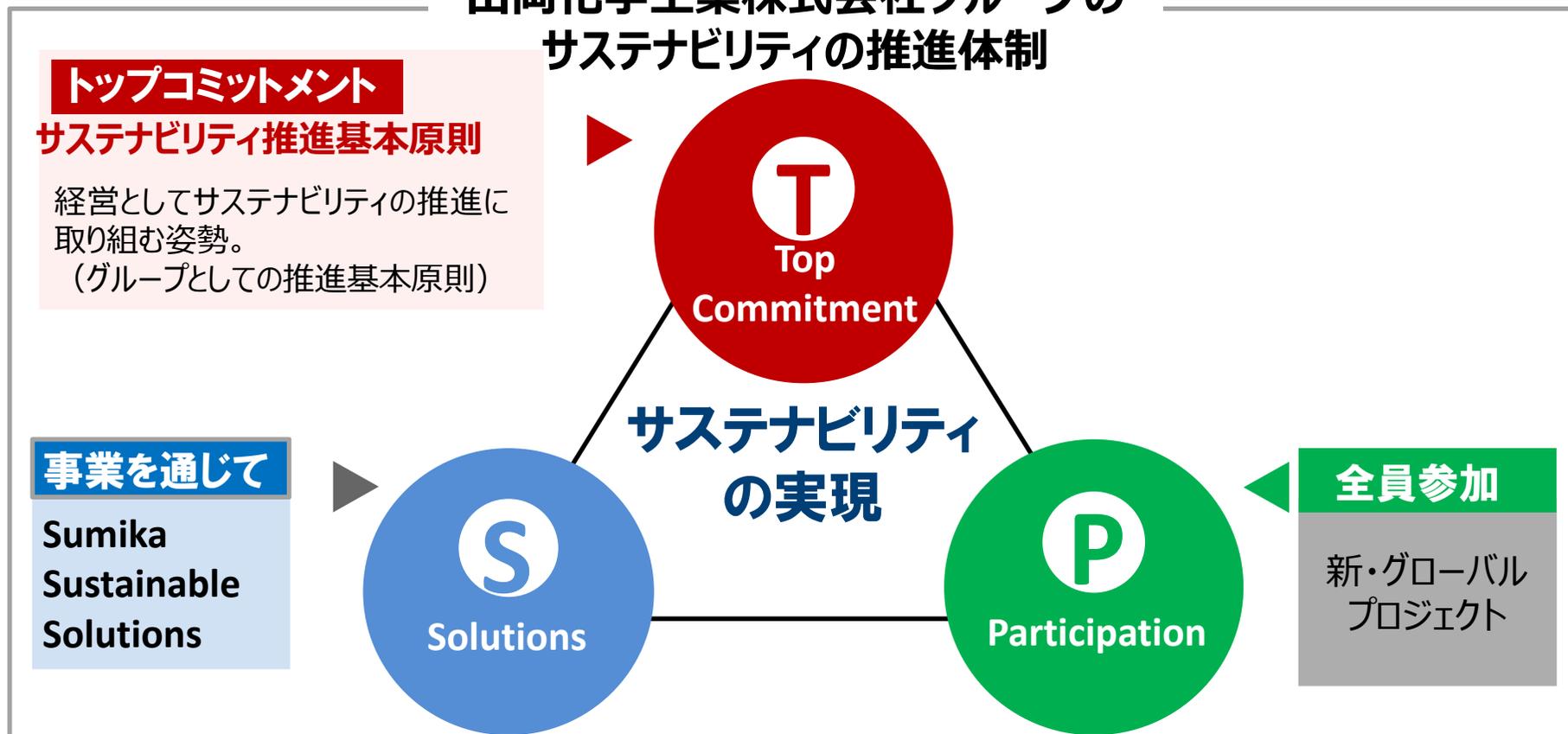


4. トピックス (3) 田岡化学のESGに資する取組み

当社は田岡化学工業株式会社グループの一員として、持続可能な社会の実現に貢献する為、サステナビリティ活動を推進しております。

当社は経営理念を社員一人ひとりが自らの業務を通じて実現すべく、誇りを持って取り組んでおります。

田岡化学工業株式会社グループのサステナビリティの推進体制



4. トピックス (3) 田岡化学のESGに資する取組み

環境への取組み：ハーモニックケミカルズのTAOKA

項目	内容
ISO 26000世界憲章への署名	2014年署名
環境マネジメントシステムISO14001認証取得	2004年取得（2015年度版に移行済）
環境会計の導入	2011年度から
エネルギー消費量削減への取組み	エネルギー消費量削減を計画・実施 （2018年度も省エネ法事業者Sクラス評価）
CO2排出量削減への取組み	CO2発生量のSBT目標を設定 （2030年度に2017年度の△15%に挑戦）
環境規制値の遵守	水質汚濁・大気汚染・化学物質等の排出量等
化学品安全、製品安全	REACH・GHS対応、化審法、SDS、HIOカード等

4. トピックス (3) 田岡化学のESGに資する取組み

社会への取組み：ハーモニックケミカルズの 

項目	内容
SDG'sへの参画	田岡化学工業株式会社グループとして
人権の尊重に関する基本方針	田岡化学工業株式会社グループとして
Sumika Sustainable Solutions への応募	環境貢献度、革新性等を審査、認定
新・グローバルプロジェクトへの参画	全員参加のサステナビリティ推進を具現化する田岡化学工業株式会社グループのWeb投稿サイト
企業行動憲章の遵守	全役職員への徹底
地域に負荷を与えない生産活動	完全無災害、騒音・臭気クレームゼロの継続実施
地域貢献活動	地域行事への協賛・参画

4. トピックス (3) 田岡化学のESGに資する取組み

経営理念に基づく事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献

《製品例》

- 医薬中間体、
農薬中間体
- ワニス
- 樹脂原料
- ゴム薬品

